

特別支援学級 自立活動指導案

令和8年7月8日（水）
天童市立第一中学校
特別支援学級

指導者 門脇 宏樹
場所 ピロティ

単元名 「みんなでつなぐモルック大会～ルールと環境を工夫して、全員で楽しもう」

1. 単元について

生徒の実態に合わせた
単元となるため、当日資
料配布させていただきます。

2. 自立活動の区分

（１） 心理的な安定

- ・土の床面によるイレギュラーや敗北など、思い通りにいかない状況を受け入れ、事前の約束（深呼吸やリフレッシュスペースへの移動）に沿って気持ちを切り替える。

（２） 人間関係の形成

- ・6人のメンバーで協力し、作戦や役割分担を決めてゲームを円滑に進める。

（３） 身体の動き

- ・的（スキットル）との距離を捉え、適切な力加減（下手投げ）を意識してコントロールする。

（４） コミュニケーション

- ・友だちのプレーに対して肯定的なフィードバック（応援・賞賛）を送り合う。

3. 生徒の実態と個別のねらい

別紙に記載

4. 支援の工夫

（１） 「活動への見通しが持てるようにするための工夫」

- ・活動の流れや得点の経過を掲示し、「投げる」「モルックを元に戻す」「得点を記入する」などをイラストで確認する。また、学習カードを通して、単元の流れが分かるようにする。

（２） 「安心してゲームに取り組めるようにするための工夫」

- ・チーム編成は、生徒同士の関係性や安心感を考慮して行う。また、「30点制」や「応援ポイント」制度の導入により、勝ち負けにこだわり過ぎず、集団で協力して楽しめるようにする。

（３） 「コミュニケーション力を高めるための工夫」

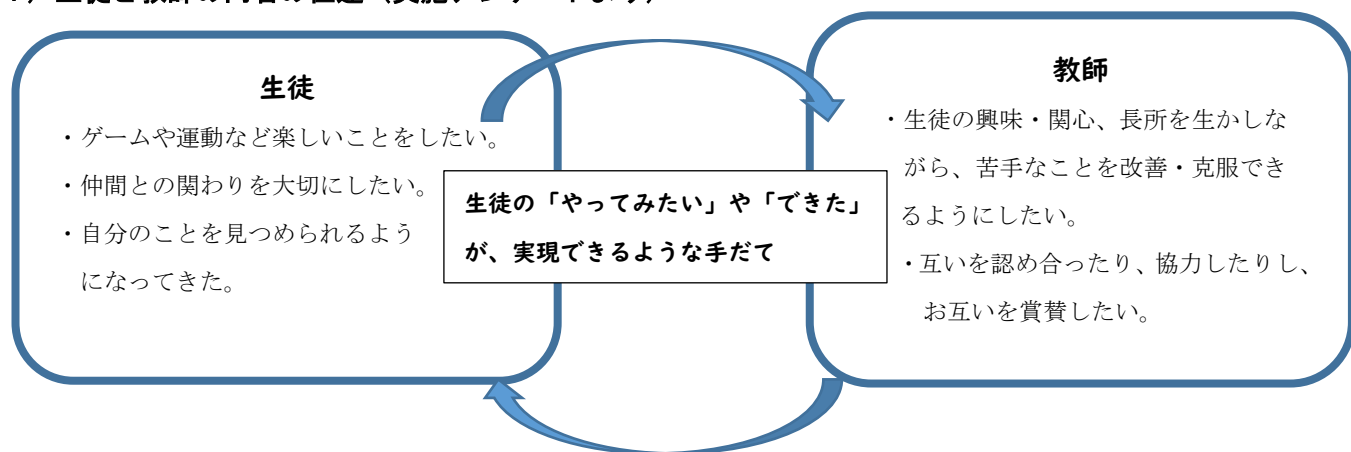
- ・「相談する」「応援する」「喜び合う」などの姿が見られた場合は、「グリーンカード」を出して、教師が肯定的な姿を視覚的に価値付ける。

5. 単元計画（全5時間）

時	学習内容	具体的な活動
1	モルックを知ろう。	下手投げの基本練習を通して、ピンを倒す面白さを味わう。
2	チームでモルックをしよう。	順番と役割分担、ピンの立て直し方を覚える。
3	作戦と「特別ルール」を決めよう。	チーム会議、誰がどこを狙うか、ハンデ等の設定を行う。
4 本時	モルック大会をしよう①。	環境に合わせてゲーム運営を行う。
5	モルック大会をしよう②。	単元の振り返り、道具のメンテナンスなどを行う。

6. 本時の学習活動

（1）生徒と教師の内省の往還（実施アンケートより）



（2）本時の目標

- ① みんなで決めた「特別ルール」を守り、役割（得点・ピンの立て直しなど）を果たしながら協力してゲームを進めることができる。
- ② 地面の凸凹によるミスや失点時も、事前の約束（深呼吸、リフレッシュスペースに行くなど）を実践して感情をコントロールする。
- ③ 友だちのプレーに対して、肯定的な言葉（「ドンマイ」「ナイス」）や応援の声をかける。

（3）評価

- ① ルールを守りながら、最後までゲームを楽しむことができたか。
- ② 仲間と相談したり声を掛けたりしながら、活動をすることができたか。
- ③ 気持ちを切り替えて活動に参加することができたか。

(4) 活動の流れ

時	学習活動（・生徒の動き）	指導・支援上の留意点	評価規準・方法
導入 7分	1、本時の活動の流れと約束事を確認する。(8分) ・視覚的スケジュールを見る。 ・凸凹をプラスにとらえる。 ・感情のコントロール方法を思い出す。 ・応援や賞賛の言葉がけの種類を発表する。		・本時の見通しを持ち、進んで環境整備や約束の確認に参加しているか。 (行動観察)
展開 35分	みんなでポジティブな声掛けを行い、最高のモルック大会にしよう。 2、チーム毎に練習する。 (8分) ・スキットルを半分に分けて練習する。 ・ねらいを定めて、モルックを投げる。 3、モルック大会を行う。 (20分) ・自分の順番に下手投げで投げる。 ・スキットルを立て直す。 ・得点盤をめくる。 ・友だちの応援(仲間、対戦相手両方の応援)を行う。 ・ミス時は「深呼吸」等を実践する。 4、後片付けを行う。(7分) ・道具を集め、次回使用できるように拭いてしまう。	生徒の実態に合わせた单元となるため、当日資料配布させていただきます。	・友だちのプレーやミスに対して肯定的な応援ができているか。 (行動観察) ・ミスやイレギュラー時に、自分で感情を切り替えようとしているか。 (行動観察)
まとめ 8分	5、振り返る。 ・学習カードに自己評価と今日のキラリ賞を書き、発表する。 ・勝敗に関わらず、互いの健闘を称え合う。		・自分の行動について客観的に振り返ることができたか (学習カード)